

日本学術会議

人類学分科会公開シンポジウム

「高等学校・新科目「公共」にむけて
—文化人類学からの提案—

2022年度から高等学校公民科の共通必修履修科目として、国家・社会の形成に参画する自立した主体を育てることを目指す、「公共(仮)」が新設されようとしています。このシンポジウムでは、同質的な社会ではなく、多様性を含み込み、マイノリティの自律性を担保する社会の実現をめざす「公共」のあり方を、異文化研究を専門とする文化人類学から提案します。高等学校教育現場との対話につながることを目指したいと考えます。

開催日時：2016年12月18日(日) 13:00~18:00 (開場12:30)

場所：日本学術会議講堂(東京メトロ千代田線 乃木坂駅5出口1分)

☆入場無料/事前申込不要/当日先着順



司会 中谷文美 (学術会議連携会員 岡山大学教授)

ご挨拶

宮崎恒二 (学術会議第一部会員 地域研究委員会委員長 東京外国語大学教授)

趣旨説明

窪田幸子 (学術会議第一部会員 神戸大学教授)

報告①「多様性を包摂する社会を目指して：文化人類学の三つのメッセージ」

亀井伸孝 (愛知県立大学外国語学部准教授)

報告②「多文化状況の公共社会で求められること」

鏡味治也 (学術会議連携会員 金沢大学教授)

報告③「映像民族誌による「異文化」呈示 - 市民ベースの文化交流に向けて」

高倉浩樹 (学術会議連携会員 東北大学教授)

コメント・質疑応答

主催：地域研究委員会人類学分科会

共催：日本文化人類学会、科学研究費基盤(S)

「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」
(代表、竹沢泰子)

問合せ：窪田 幸子 kubotas@people.kobe-u.ac.jp

